

編集後記

「4年に一度では、もったいない。」という声が今回も聞かれました。子ども達は練習を重ねるごとに歌と演奏が上手になりました。毎朝の賛美歌の歌声の響きも変わってきました。休み時間に歌を口ずさむ子どもも増えました。子ども達が上手になれば先生からはさらに高いレベルを要求する、そして子ども達はそれに応える、を何度もくり返して当日を迎えました。子ども達と先生が作り上げた合唱と演奏を多くの方に聴いていただいた。終わった瞬間、「たった一回の本番が本当にもったいない。」と思いました。

初等部 高橋 出

音楽会の合唱では、努力した練習の成果を表現できたと思う。運営を担う常務の仕事などでも、生徒同士の連携がよくできていて、とても頼もしかった。

最高学部が別に彙報を発行することになり、今回は初めての号である。さらに年報の内容を充実させていきたいと思う。

女子部 星住リベカ

昨年度は、東京芸術劇場で音楽会を行いました。今号には音楽会の指導記録と音楽会を終えたときに書かれた習字を掲載しています。音楽会当日の演奏がどのように作り上げられたのか、また、音楽会后にどのような思いが習字に表現されたのかをご覧ください。いただければ幸いです。

男子部 山縣 基

4年ごとに行われる音楽会は、日ごろの音楽教育の成果を発表する場です。四季折々の行事、毎週の音楽の時間、昼食時間の鑑賞を通して音楽に対する感性が着実に育まれていきます。

どの年代にもその発達段階にあった音楽教育を考え、実践されている姿を一同に鑑賞できる機会は得がたいものであり、その教育実践報告を残せることに心から感謝を感じています。

今号では、学園長が今までの海外交流を振り返り、イギリスからの英会話の助手として学園を訪れられた24人(23年間)の記録を残してくださいました。この記録はこれからの国際交流発展の礎になると思っています。

女子部 梶野ルミ子